
国内最大の国際海事展『Sea Japan』4年ぶりに開催！

～DX・ゼロエミッションを海事産業から考える～

海事関連企業・団体 350社が東京ビッグサイトに集結！

第14回目を迎える Sea Japan は、コロナ禍にも関わらず国内外より 350社が出展し、2022年4月20日（水）～22日（金）の3日間、東京ビッグサイトで開催される。展示会場では、国内外の海事関連企業が最新の技術や研究、そしてサービスを紹介し、活発な商談が3日間を通じ繰り広げられる。また今回は、オンラインツールを導入したプラットフォーム「Sea Japan オンライン」を新たに設置し、オンライン上での出展社と来場者間のマッチメイキングや、商談などが可能になり、オンラインとリアルを掛け合わせた「ハイブリッド」での開催となる。

Sea Japan 2022 のテーマは「ゼロとデジタルの世界へ」

地球温暖化対策をはじめ世界規模での環境保護対策が急務となる中、日本でも2020年3月国土交通省によって国際海運のゼロエミッションに向けたロードマップが策定されており、2028年までの「ゼロエミッション船の商業運航」を目指して業界をあげた取り組みが展開されている。また一方で、海事産業が抱える海難事故の減少、個人輸出入の拡大による貿易ニーズの増加、労働環境の改善、労働力不足などの諸問題に対応すべく、自律運航、自動運行、遠隔検査、IoT、AIなどデジタル技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進も業界にとっての欠かせない課題となっている。

Sea Japan 2022では今回のメインテーマを「ゼロとデジタルの時代へ」とし、出展社が造船、海運、そして船用機器のそれぞれの分野でのゼロエミッションとDXに関連する取り組みと最新の技術や戦略を紹介するとともに、併催される多彩な業界セミナーを通じ、様々な角度から海事産業にとっての環境保護対策とデジタル化に関する課題と可能性を探る。

ジャパンパビリオンでの新たな挑戦

海事業界関係者も注目するジャパンパビリオンが今回も日本財団の特別協賛（日本舶用工業会主催）により、会場の中央に設置される。ジャパンパビリオンは『ジャパン海事クラスター企画委員会』が企画した「テーマゾーン」と日本舶用工業会会員企業が出展する「メンバーズゾーン」で構成され、同パビリオン内には、業界をリードする企業が国内最高峰の技術、サービスが展示されるとともに、研究内容の発表もされる。

「テーマゾーン」では、Sea Japanの全体テーマである「DX・自動運行」、「ゼロエミッシ

ョン」のエリアに加え、初出展であるジャパンマリンユナイテッドをはじめとした「造船」エリアの強化、また近年注目を集めている「海洋資源開発」エリアなどが設けられ、日本を代表する海運、造船所、大学、研究機関、官庁、業界関連団体が、最新技術やサービスを世界に向けて発信。

注目のセミナーおよびイベント

無人運航船プロジェクト
**MEGURI
2040**



会期初日（4月20日）には、日本財団主催で世界初の無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」実証実験の成果報告会が開催される。同セミナーでは、各コンソーシアム

による成果報告が行われ、また会場での同時通訳だけでなく、日本語と英語の両言語でのライブ配信も行い、コロナ禍で入国できない海外からの参加者も視聴できる「2言語のハイブリッド」で開催される。

また会期2日目（4月21日）には、インフォーマ マーケッツ ジャパン、海事プレス社による国際会議が開催される。今回の国際会議では“Green x Shipping 日本の成長の道”をテーマに今回も日本の造船企業のトップが集結し、日本海事産業の「いま」と「これから」を発信する。

〈国際会議の講師一覧〉

- 川崎汽船株式会社 代表取締役社長 明珍 幸一氏
- 川崎重工業株式会社 常務執行役員エネルギーソリューション&マリンカンパニーバイスプレジデント兼船舶海洋ディビジョン長 今村 圭吾氏
- ジャパン マリンユナイテッド株式会社 代表取締役社長 千葉 光太郎氏
- 三井E&S造船株式会社 代表取締役社長 船津 勇氏
- 三菱造船株式会社 代表取締役 北村 徹氏
- 一般財団法人 日本船舶技術研究協会 会長 田中 誠一氏
- アンカー・シップ・パートナーズ株式会社 代表取締役社長 篠田 哲郎氏
- 株式会社商船三井 取締役専務執行役員 エネルギー営業本部長 松坂 顕太氏
- 一般財団法人日本海事協会 会長 坂下 広朗氏
- 日本郵船株式会社 専務執行役員 経営企画本部長 曾我 貴也氏

さらに会期最終日（4月22日）には、国土交通省、日本海事協会、日本船用工業会主催による船舶海洋技術セミナーを開催し、“「脱炭素」実現に向けたロードマップ”をメインテーマに脱炭素化社会に向けた海運・造船・船用業界の挑戦を発表する。



前回に引き続き、会期最終日の最終日に、船舶の一般見学会も開催する。今回は、海上保安庁最大・最新鋭の測量船「平洋」が着岸する。「平洋」の総トン数は4千トン。海上保安庁において、大型測量船の就役は22年ぶりで、最新の調査機器を搭載した注目の測量船を間近に見ることができる貴重な機会である。

バリシップ 2023 の開催を発表！特別トークショーも開催

会期 2 日目には、イベントステージにて「バリシップ 2023」の開催決定を発表する。開



催発表に伴い、特別後援団体である今治市より徳永繁樹市長、今治海事都市交流委員会より今治造船株式会社 代表取締役社長である檜垣幸人氏よりご挨拶をちょうだいする。

また今回は、開催発表だけでなく、開催決定記念と称し、特別トークショーを開催。元サッカー日本代表監督で、現在は FC 今治運営会社「株式会社今治・夢スポーツ」の代表取締役会長である岡田武史氏を招き、日本社会全体のテーマである「人材育成」についてスポーツの観点からご紹介いただく。

岡田 武史（おかだ たけし）氏

大阪府のご出身。早稲田大学政治経済学部卒業後、古河電気工業株式会社に入社。1997 年 FIFA ワールドカップフランス大会の本戦初出場を果たし、Jリーグ コンサドーレ札幌監督、横浜 F・マリノス監督を歴任し、2010 年 FIFA ワールドカップ南アフリカ大会ではチームをベスト 16 に導く。

海外でも中国スーパーリーグ杭州绿城でも指揮し、現在は愛媛県今治市を拠点として、FC 今治の運営会社、株式会社今治・夢スポーツの代表取締役会長に就任。「次世代のため、物の豊かさより心の豊かさを大切にする社会づくりに貢献する」を企業理念として、地方創生にも尽力。

Sea Japan 2022 では、上記のセミナーやイベントに加えて、業界が直面する課題を考え、最新動向を探る様々な業界セミナーを併催。

詳細：Sea Japan オフィシャル Web サイト <http://www.seajapan.ne.jp/>

展示製品

造船／船舶修理／船用工業製品（軸系及びプロペラ、係船・荷役機械、船用ボイラー、冷凍機・空調装置、発電器・電動機、公害防止機器・環境保護、塗料・塗装機器、安全設備・防火設備、ディーゼル機関及び推進装置、ディーゼル機関の部分品・付属品、配電盤・起動器・制御器、電気器具、熱交換機、油圧機器、油処理装置、空気機械、ポンプ、船用タービン、弁・管継手、計器類、船用燃料・潤滑油、操舵・操船装置、錨・錨鎖・ロープ、居住設備、航海計器・通信機器・電波計器、コンピューターシステム及びソフトウェア）／港湾局・港湾管理者／港湾設備・港湾サービス／シップエージェンシー／船用組織・団体／船級協会／商社／出版／他海事製品・サービス全般

開催概要

名称：Sea Japan 2022

会期：2022 年 4 月 20 日（水）～4 月 22 日（金） 10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト 東 5・6 ホール

主催：インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社

特別協力：日本財団

後援：国土交通省、(一社) 日本船主協会、日本内航海運組合総連合会、(一社) 日本造船工業会、(一社) 日本中小型造船工業会、日本船舶輸出組合、(一社) 日本海運集会所、(一社) 日本舶用工業会、(一社) 日本旅客船協会、(一社) 日本長距離フェリー協会、日本貿易振興機構 (ジェトロ)

出展国：韓国・中国・デンマーク・アメリカ・ノルウェー・イタリア・ポーランド・キプロス・ドイツ・フィンランド・イギリス・シンガポール・オランダ・スウェーデン・スイス

取材ご希望の方は来場事前登録後、当日来場時に主催者事務局へお立ち寄りください。

来場事前登録：https://www.informa-japan.com/sj/form/visitor_regist.php

<本件に関するお問い合わせ先>



Sea Japan 運営事務局

(インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社)

担当：平原、関根、久保

TEL：03-5296-1020

Email：info@seajapan.ne.jp